

厚板  
溶断品

# 加工体制を再構築

## 中央スチール

### 新倉庫建設、作業環境を改善

中部地区の有力厚板溶断業、中央スチール（本社・岐阜県揖斐郡大野町、社長・森田勝也氏）は、加工体制の再構築に向けたハード増強を実施した。本社近隣の用地を購入した上で新倉庫を建設、先月末から稼働をスタートした。投資を通じて作業環境を改善し、安全性を高めることで納期対応力に磨きをかけ、さらなる受注拡大を目指す構えだ、総投資額は約1億円。

同社は建築、産業機械、精密機器関連ユーザー向けの溶断品、二次加工厚板溶断品、最大月間加工能力は700ト。

近年、引き合いの増



新設した倉庫棟

加に合わせてCO<sub>2</sub>レ成し、使用を始めた。12月9日には社員、取引先など関係者約40人が

が参集の下、竣工式を執り行った。建屋面積約1250平方メートルの新倉庫には、随所にコーポレートカラーの緑をあしらった。在庫能力は約1千トで、同所へ4×8などの定尺板、SM490A、SM400A、

SN400B、65mm以上のSS400を、本社工場に65mm以下のSS400、SN490B、SN490C、TMCP鋼をストックする。2・8ト天井クレーンを2基据え付け、シャイリングマシン1台を移設した。トラックの移動・展開が容易に行えるよう、建屋外のスペースを広く確保した。今後事務所も建造する方針だ。

森田社長は「創業以来初めての2拠点体制となる。効率的な生産体制を武器にタイムリーな製品供給に努め、16〜19といった薄番手の加工業務をさらに取り込んでいきたい」としている。

機械の大型化に伴って工場が手狭になりつつあった。

そこで、新たなスペースを確保することで加工業務の円滑化と安全性向上を図るとともに、金属ヒューム（粉塵）の抑制・低減によるオペレーターの健康確保も狙い、倉庫の増設を決めた。

新拠点開設に当たり、今年3月に本社工場の南西500㎡ほどの位置にある用地（敷地面積約2100平方メートル）を購入。8月の着工後11月末に建屋が完